

令和5年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第四小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・他学年との交流を通して、助け合ったり、協力したりするよさに気付くことができた。
上学年（2年生）は、下学年（1年生）に教えてあげる楽しさを、下学年は上学年に教えてもらう心地よさを体感できた。
- ・花や野菜を育てる活動を通して、成長の様子や変化に気付き、成長の喜びを味わい、大切に育てることができた。
- ・コロナが落ち着いてきたので、「近くの公園に行く」、「町たんけん」などのフィールドワークを取り入れた学習が充実してきた。

(2) 課題

- ・体験的な活動をした際にそれぞれの気付きを深めたり、表現したり、伝え合ったりすることに課題がある。
- ・活動の際、自分が楽しむことが中心となってしまう、相手を楽しませてあげるところまで至っていない児童が見られる。
- ・説明する際の話し方や、言葉遣いと活動する際のマナーを身に付けさせる必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各活動を通して、個々の気付きを見取るため、カードの工夫を行う。他の児童と気付きの交流ができる活動場面を設定していく。 1年「あきとなかよし」では、木の実や落ち葉を使って、「ふゆとなかよし」では、風を利用して遊んでみる活動を通して、「作る」「試す」「工夫する」力を育てていく。2年「せかいでひとつわたしのおもちゃ」では、身近にある物を使った創作活動を通して「ものづくり」の基本的な技能を養う。	見る、触る、嗅ぐなどの具体的な活動を通して観察し、表現する力を身に付けさせる。その際、「○○みたいな形です。」「触ると○○しています。」「○○と同じくらい大きいです。」などの話形を示し、具体的な文章で表現させる。また、言葉、絵、動作、劇化、タブレットで写真を撮り共有するなどの多様な方法によって他者と伝え合ったり振り返ったりさせる。	身近な人々、物、社会、自然に関わる活動を通して、そのよさや楽しさを味わわせ、進んで触れ合い、交流しようという態度を育む。 「自分で育てたアサガオ」「自分で育てたミニトマト」「自分で作ったおもちゃ」など、自分が主体的となり取り組む活動を数多く体験させる。自分の思いや願いが実現したという体験を数多く積み重ねることで、自信や次への意欲につなげていく。

